

NTTから建築家増田さんの調査「断る」と返事

NTT研修センター跡地開発に関連する議案が6月24日開かれた鈴鹿市議会で、賛成多数で可決されました。この議決を待っていたかのように、30日、NTT西日本本社不動産企画室から、私たちが依頼した建築家、増田一眞さんの格納庫調査について「断る」との回答がありました。そして「9月30日時点で(旧格納庫を活用する)事業者が不在の場合は、旧格納庫撤去の判断をする」と言ってきました。きわめて厳しい“通告”で、市議会の議決の重さを見せつける事態となりました。私たちは議会終了後ただちに、川岸光男鈴鹿市長に対し「格納庫保存へ再考を」という要望書を出しました。最後まで諦めず、各方面に引き続き保存を訴えていくつもりです。

今回の市議会の議決について私たちは①鈴鹿市内の戦争遺跡を継承し、平和教育の生きた教材として活用することを自ら放棄した②格納庫を保存活用することが、65年前の悲惨な戦争の史実を風化させることを防ぎ、平和の尊さを知ることにつながる③今回の市の提案と議会の議決は「非核平和都市宣言」(昭和60年7月1日)の精神に逆行するものであり、平和を語り継ぐことの重要性を無視したものといわざるをえない、と考えます。(市議会のくわしい様子は次頁の「ドキュメントNTT跡地利用市議会」をご覧ください)

この市議会で明らかになったのは、都市再生機構(UR)を使った跡地利用を提案してきたのはNTT側だったということです。坂尾富司文化振興部長の答弁によれば、今年1月、NTT、UR、市の三者で話し合い、格納庫については「記録保存」して取り壊すことにしたということです。また、市の防災公園整備事業とセットでないと、UR施行の開発ができないことも分かりました。市がうんと言わなければNTT側の開発もできない仕組みになっており、市が主体性を持ってNTTに注文をつけることが可能ということです。市議の方々も質疑の中でその点を市に確認していました。私たちが市長の再考を求めているのも、こうした事情があるからです。市の姿勢次第でまだ保存に望みをつなぐことができるのです。

以前、増田さんに「市の姿勢がたくな 取り壊しの方針変えず」という見出しの会報特別号を送ったところ、以下のようなファクスが竹内あてに届きました。きわめて貴重な論点、視点と考え、全文を紹介します。

竹内宏行様

FAX、拝見いたしました。市の取り壊し方針は、道理をわきまえない暴論というべきものです。あれほどの大空間を新たにつくるとなると、その費用は十数億円にのぼる莫大なものになるでしょう。こわすことにも多額の費用を費して、折角様々な使い道が考えられる大空間を消滅してしまうなど、これ以上愚かな話はありません。面積で8000㎡、体積では90000㎡に達する大空間が存在する事実そのものが有価値であって、そこは台風等から遮断された「特別保護空間」なのです。三層から四層の空間を収容しうる大空間を外力から遮断することには莫大なる費用を要するものです。外殻として健全なものがあれば、内部は如何様にも使うことができます。

耐震上の補強など、僅かな費用です。広大な外殻を活用できる所に大変な価値を生ずる道理が分かっていないのです。スクラップアンドビルドはもう通用しない時代錯誤です。これからは、既存不適格な建物でも活かして使おうという時代なのです。活用計画を費用面から裏づけて新規建築の計画と比較することをおすすめします。 10.6.14 増田一眞



増田一眞さん

ドキュメント NTT跡地利用市議会 関連議案、賛成多数で可決

3分の1の10人が反対

6月24日、鈴鹿市議会の6月定例会最終日。予定通り、午前10時から本会議が始まった。傍聴席には市民の会の会員ら10数人が詰め、成り行きを見守る。1年前、格納庫の見学案内をしてくれたNTT関連会社の課長もいる。

討論に入った。森川ヤスエ議員（日本共産党）がまず立った。「都市再生機構（UR）との協定締結に同意する41号議案に賛成することは、NTTがURに整備を依頼する大学南側の開発も白紙委任することになる。ここにある格納庫は市民団体が平和への思いを込めて後世に残したいと運動している。市民団体がNTTとの話し合いを深めるには時間が必要だ。議会が責任を持てるまでURとの協定に同意することは先送りしたい」

同党は跡地利用3議案のうち防災公園の補正予算（第36号議案）、公園区域の決定（第40号議案）には賛成の立場を示した。6月11日の一般質問では頭を丸刈りにして壇に立ち、「鈴鹿市の原点」と格納庫の保存を訴えた原田勝二議員（すずか倶楽部）の反対討論に移る。

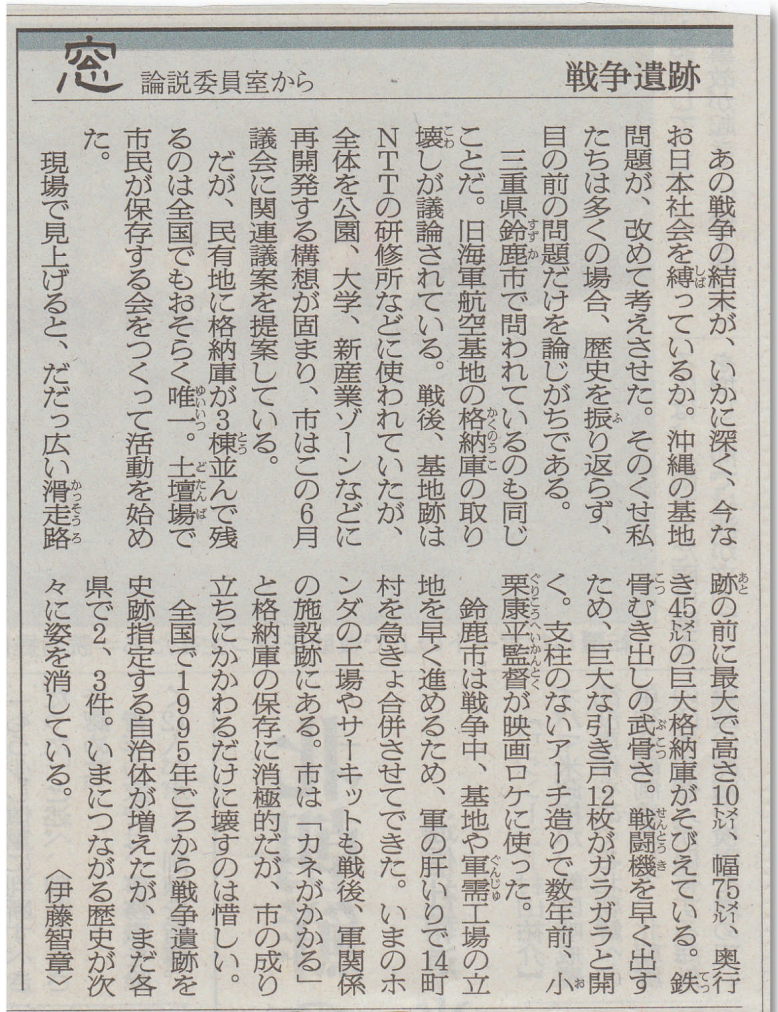
「そこで玉音放送を聞いた無念さが凝縮している格納庫は不戦の誓いにふさわしい場所。営利のみでなく市が公の立場で所有者の理解を得て戦没者の霊をなぐさめ、平和利用に着手すべきだ」と切り出した。「政府与党の事業仕分けの対象になっているURに委託することは危うい。身近な防災施設の充実が急務なのに、防災公園をなぜ急ぐのか。NTTが開発予定の南側についても、旭が丘小の運動場拡張、格納庫の平和利用などがどうなるか、霧の中にある」と反対理由を述べ、「この跡地利用は市長がリーダーシップを発揮する絶好の機会」と締めくくった。

続いて中西大輔議員。原田議員と同じすずか倶楽部に属する。同会派からの2人の討論は前日の議会運営委員会で例外的に認められた。「防災公園に30億円という額そのものが妥当か。児童1人当たり市内で一番狭い旭が丘小（NTT用地に隣接）のグラウンドを広げる話も庁内の議論だけ。住民、

P.T.Aの意見を聞かないのはおかしい。NTT側の整備内容が分からぬ状況で事業着手するのは問題だ」

伊藤健司議員（あくていぶ21）はただ一人、賛成討論に立った。私たちの思いを聞いてもらおうと会派回りをしたとき、熱心に耳を傾けてくれた人だ。会派を代表して、と前置きして「URによる防災公園、街区整備によるまちづくりの効果は大きい。土地利用転換計画の早期推進をはかる時宜を得た事業だ」と述べた。最後に立った杉本信之議員（無所属クラブ）は「防災公園がいま本当に必要か。市民の家屋の耐震補強に手厚い予算をつけることの方が急務だ。また、南側の既存施設を有効活用しながら一体的に整備することが大事だ。市民の意見も聞き、もう一度考える必要がある」と反対討論した。

ただちに起立による採決に移った。まず防災公園整備事業の債務負担行為の補正予算案（第36号）。座ったままで反対の意思表示をしたのは、最前列の板倉



操、杉本信之（無所属クラブ）、2列目の中村浩、市川哲夫（市政研究会）、最後列の原田勝二、後藤光雄、中西大輔、南条雄士（すずか倶楽部）の計8議員。防災公園の区域決定をする議案（第40号）もこの8人が反対した。URが直接施行することに同意する議案（第41号）には森川ヤスエ、石田秀三（日本共産党）の2議員が加わり、反対は3分の1の10人となった。賛成の起立をしたが、「絶対に残すべきだ」と格納庫の保存に熱意を燃やし、いろいろ情報と知恵を授けてくれた議員がいた。「やむをえず反対を貫徹しないが、保存のためがんばってほしい」と電話をくれた議員もいる。3分の1の反対があったというのは、市側にとっては「苦い可決」だったのではないかと。（鈴鹿市議会の定数は32で現在欠員1）傍聴した会員の中には「賛成討論は1人だけ、4人も反対討論してどうして可決なの」と素直な疑問をぶつける人が何人かいた。確かに不可思議な話ではある。

この6月定例会が格納庫の命運を決める大事な議会と見て、私たちはゴールデンウイーク明けから「あくていぶ21」（7人）、「市政研究会」（6人）、「政友会」（4人）、「公明党」（3人）、「緑風会」（3人）、「日本共産党」（2人）、「無所属クラブ」（2人）の7会派を回った。なぜ保存運動に取り組んでいるのか、切々と訴えた。残る「すずか倶楽部」（4人）は「わかっていますから」と遠慮された。

議会が開会してからは毎週のように、会報や資料を議会に届けた。野間芳実議長は各議員のメールアドレスへの投函を許可して下さった。鈴鹿市が軍都として誕生した歴史、その象徴であり、貴重な戦争遺跡である格納庫の存在について、議員の方々に知っていただき、考えていただいたのは、市議会史上初めてではなかったか。議会のやりとりの新聞報道を通じて市民にも広く知ってもらえた。議会が終了したあと、共同代表の2人は野間議長はじめ各会派を再び回った。熱心な審議にお礼を述べ、「これからもよろしく」とお願いした。

鈴鹿市長に再考を申し入れ

NTT研修センター跡地利用の関連3議案の議決を受け、私たち市民の会は、6月29日、川岸光男鈴鹿市長に「取り壊し・記録保存」の方針を再考してもらうよう要望書を出しました。全市議と記者クラブに「関連議案が可決されたとはいえ、全く諦めていません。保存運動はこれからと考えています」という手紙を添えて市長への要望書のコピーを届けました。

要望書は次の通り。

6月定例市議会で貴市が提案されたNTT研修センター跡地の整備に関連する3つの議案が賛成多数で可決されました。私たちが保存を要望している旧海軍の格納庫について、市長と担当部長は、質問に答え「記録保存」して取り壊す方針を示されました。しかし、それは鈴鹿100年の計を過つものであると考えます。

- ①格納庫は軍都であった鈴鹿市の誕生を象徴する建物である。
- ②民有地に3棟並ぶ格納庫は全国にも例のない戦争遺跡であり、貴重な文化財である。
- ③この建築物の価値や耐震診断などきちんとした調査がなされていない。
- ④スクラップ&ビルドという考え方は時代錯誤であり、既存建物を活かして使う時代である。

などの理由により、ぜひとも保存していただくよう強く強く再考を求めるものであります。私たちは「伝統を未来につなげる会」の代表で構造設計の第一人者といわれる増田一眞さんに調査を依頼し、快諾を得ました。いまNTTに立会いをお願いしているところです。市の取り壊し方針に対する増田さんの考えがファクスで送られてきました。貴重な指摘、視点と考え、添付いたします。再考の資料といただければ幸いです。

市長は車座という形で市民との対話を重ねてられました。戦争遺跡をテーマにした車座をぜひ開いていただきたく、合わせてお願いする次第です。

